「図書館に行こうよ ―新米司書館長の図書館日記―」 003

Title： 大館市立図書館の強みとは

✿事業団の強みはイベント力

本紙桜町通信によると、市民文化会館の今年度の自主事業として『宝塚歌劇団宙組公演』が決定したとのこと。しかも演目は宝塚百周年記念の「ベルばら」ということで、なんともめでたいことです。7月には大館出身のマリンバ奏者布谷史人さんの奔走で、世界のマリンバ奏者が集結する「ゼルツマン・マリンバ・フェスティバル」が日本初開催。すごいなあ。大館市民としてぜひとも応援しなくては。また樹海ドームは、産業祭やきりたんぽ祭りが定着し、某人気グループのリハーサル会場としても話題になっています。

いずれも地域外から大館に多くの人を呼び込むイベントで、地域経済への波及効果も大きなものがあります。市民の日常的な使用に供するとともに、入り込み客の多い事業・貸館を積極的に企画し受け入れる意欲と態勢が備わっていることが、両施設の指定管理者である大館市文教振興事業団の強みと言えるでしょう。

✿図書館の強みとは

市民サービスに対する意識・意欲の高さが、文教振興事業団のもう一つの強みです。これは図書館においても同様だと思うのですが、いかがでしょうか。まだまだ足りないところはあるでしょうが、図書館の基本サービスにおける熱意は他の図書館に引けを取らないのではないかと思っています。

もっとも、その表れはまちまちです。人それぞれですから市立図書館の職員全員が一見して愛想がいいわけではないかもしれません。それでも、実際何かを尋ねてくれれば、誠心誠意資料を探す手伝いをします。そのような関係性の中でお互いに理解し合えるようになるはずです。資料だけでなく、図書館員も利用してもらうために存在するのです。どしどし利用してください。

ただ、女性が多い職場ですし、館内にはほかの利用者もいるので、大声でどなるなどの威圧的な態度をとるのは止めてくださいね。もし不満を覚えることがあったら、遠慮なく館長に言ってください。あるいは「ご意見カード」に記入してください。回答し、対応します。

入館も閲覧も利用カード発行も貸出しも、そして協定している他館との本の貸借まで、無料で使える施設である図書館、ということは、皆で有限な資源を分かち合う場であるということです。それは図書館が民主主義の学校であるという考え方につながります。何にしろ、図書館をお互い気持ちよく使いたいものですよね。市立図書館のもう一つの強みが「図書館員と利用者の存在」と曇りなく言えるようになるように、お互い切磋琢磨していきましょう。

✿S さんのこと

うれしい知らせでした。図書館の自主事業「ビブリオバトル」に熱心に参加してくれていたＳさんが、晴れて県外の公立大学に合格したとの知らせです。

本好きの S さんは以前から図書館をよく利用していたのですが、どちらかというと自分から発言・発信するタイプではありませんでした。それなのに人前で本を薦め

あう書評合戦に参加することにしたのは、ひとえに大好きな本を他の人にも読んでみてほしいという気持ちから。気持ちのこもった言葉がいっぱい詰まった発表で、みごと第１回のチャンプ本に輝きました。

何度かＳさんの発表を見ていて、変わってきたなあと感じることがありました。はじめの頃の少しおどおどした伏し目がちの態度から、視線が上がって人や場をしっかり見つめるようになってきたのです。年齢的な成長段階でもあるでしょうが、ビブリオバトルおよび図書館がＳさんの成長に一役買ったことも間違いないでしょう。しっかりした目標をつかんで大学に進むＳさん、どうか真直ぐに進んでください。あなたが私たちに与えてくれたものは、大きな喜びと自信です。ありがとう。　（陽）